茨木市立山手台小学校　全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

**（領域ごと）**

①言葉の特徴や使い方に関する事項　　概ね良好な結果であった

②Ａ話すこと・聞くこと　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

③Ｂ書くこと　　　　　　　　　　　　 　　　　　 概ね良好な結果であった

④Ｃ読むこと　　　　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

①選択式　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

②短答式　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

③記述式　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（その他）**

２－二　思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題は、最も正答率が高かった。

２－四　目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題は、最も正答率が低かった。

３－二　目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の無回答率が最も高かった。

分析

全体的に「概ね良好な結果」であった。文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題の正答率は高かったが、無解答率も高い。本校では国語科の研究に取り組んでいるが、係り受け解析、照応を意識させる取り組みが必要である。

漢字の書き取り問題では、正答率はやや低かったが、無解答率が高かったことが課題である。漢字を文の中で正しく使うには、ことば集めなど語彙を増やす取り組みや短文づくりをはじめ、すべての教科や日常生活において既習漢字を書く習慣をつける必要がある。

また、自分の意見を簡潔にまとめ、条件に合うように記述することにも課題がある。目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは、これからの子どもたちが身に着けていくべきスキルである。国語の授業だけでなく、すべての教科でリーディングスキルを意識した取り組みを進める必要があると考える。問題文を読み取る力（リーディングスキル）を高めていくことで、自分の考えをふまえ、必要な情報を取捨選択し、簡潔に説明できる力を養うことが肝要である。

○●算数●○

**（領域ごと）**

①Ａ数と計算　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

②Ｂ図形　　 　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

③Ｃ測定　　　　　　　　　　　　 　　　　概ね良好な結果であった

④Ｃ変化と関係　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

⑤Ｄデータの活用　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（問題形式）**

①選択式　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

②短答式　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

③記述式　　　　　　　　　　　　　　　概ね良好な結果であった

**（無解答率）**　　　　　　　　　　　　 概ね良好な結果であった

**（その他）**

学校の特徴的なことについて記入

　　　　・もっとも正答率の高かった設問

　　　　・もっとも正答率の低かった設問

　・もっとも無解答率の高かった設問

　　　　・もっとも無解答率の低かった設問など

３（１）棒グラフから数量を読み取る問題の正答率が高い。

３（３）データを2次元の表に分類整理する問題の正答率が高い。

３（５）集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する問題の正答率が高い。

４（３）少数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を１としたときに比較量が示された少数に当たる理由を記述できる問題は、無解答率が高い。

**分析**

全体的に「概ね良好な結果」となった。しかし、図形問題に課題が見られた。三角形の面積を求める問題でも平行四辺形の面積を求める問題でも、公式に単純に数字を当てはめるだけの児童が多く、公式の意味を理解している児童が少なかった。図から必要な情報を読み取る力に課題がある。公式の意味を理解し、それを使って正確に面積を求める力を定着させるためには、こまめに既習事項の確認をする必要がある。

また、少数や分数の計算に苦手意識があり、単純に大きい数を小さい数で割ろうとする傾向がある。基礎的な計算力をつけるとともに、落ち着いて問題文を読み、計算ミスを防ぐために検算する習慣をつけたい。

グラフから数量を読み取る問題や、二次元の表に分類整理する問題、集団の特徴を捉えるために集めるべきデータを判断する問題は概ねよくできている。

全国学力テストの問題はシンプルな計算問題はほとんどなく、問題文から必要な情報を読み取って解答する問題がほとんどである。山手台小学校の児童の無解答率が全体的に低いということは子どもたちが最後まであきらめずに問題に取り組んだ結果だと言える。ただ、やはり記述式の問題には抵抗感があるようである。算数の問題文から必要な情報を読み取ったり、図やグラフの意味を読み取るのに必要なのが読解力である。よって、算数科でも引き続きリーディングスキルの向上を目指した取り組みを進めるとともに、問題文から読み取った内容を自ら図式化できるように支援する必要があると考える。

○●経年比較●○

学力高位層と学力低位層、エンパワー層

についての分析

国語：前回より学力高位層の児童が増加し、低位層の児童も大幅に減少し、良い傾向にある。しかし、まだ高位層より低位層の方が多いため、低位層の底上げが必要である。

算数：前回より学力高位層・低位層共に減少した。

　　　問題を読み取る力と自分の考えを書く記述式問題の抵抗をなくすために、普段から問題解決の流れを徹底する必要がある。

全体的な傾向についての分析

国語は、前回より正答率が上がったが、算数はやや低下した。

国語については、リーディングスキルの取り組みによる成果が少しずつ現れてきている結果だと推測される。

算数については、既習内容の定着と問題文から必要条件を読み取り（リーディングスキル）、既習事項の選択、自力解決に向けた取り組みを継続して行う必要がある。

学力向上に関する取組み

※授業づくり　～リーディングスキルを意識した授業改善～

・発問の工夫：学習課題を明確化

・語彙の強化を図る：「言葉の宝石箱」の掲示

・係り受け解析の強化を図る：基本的な文章構造を意識させるための掲示物

・メタ認知の強化：振り返りを習慣化「何をどう学んだか書かせる」

・読む力の強化：

・「考える読み」の取り組み：視写に取り組む。

・MIMの取り組み

※今までの山手台小学校の取り組みの継続

・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。：ホワイトボード、オクリンクの活用

・問題解決学習の推進。

・授業の視覚化、構造化、協働化の定着

・効果的なタブレットの活用、支援教育コーディネーターと学習サポーターとの連携

・習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導

・山手台スタンダード、１００点筆箱、学習のルールの定着

・校内研修会の実施

※基礎的な学力の育成

・朝学習の充実・・・なかよし学びタイム

・スクールサポーターと連携し、学力の向上を図る

・読書カードによる読書活動の記録化

・中央図書館と連携し、読み聞かせなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする

※家庭との連携

・学習・生活アップ週間、家庭学習の手引き

・家庭学習、自主学習の定着を図る。

・音読カードや九九カードの取り組みにおいて家庭との連携をはかる

※小中連携の強化

・小中合同研修

・北陵中学校区の研究授業の実施

・交流会の実施

・経験の浅い教職員の相互研修

○●取組み●○